

## 「日本ではこう書きます!!」と言わないための漢字の知識

漢字の知識は、日本の学校教育では国語科で学びます。しかし、その多くは「漢字テスト」の対策であり、文化的な側面や日本語を表記する方法の一つであるという認識が疎かになっているように思います。また漢字文化圏の学生にとっても母語での漢字の位置づけは、日本語のそれと同じものではありません。この講座では 2021 年度の講義を基礎として、具体的な事象をより多く取り入れてお話ししていきたいと思います。



**講師:久保裕之 先生** 立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所

プロフィール:

立命館大学法学部卒業後、1997年財団法人日本漢字能力検定協会(現・公益財団法人)入職。2005年学校法人立命館入職。現在は立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所文化事業担当職員。2015年放送大学大学院文化科学専攻修了。修士(学術)、漢字教育士、全国通訳案内士(中国語)。日本漢字学会評議員。

### 第1回 7/6 (水) 19:00~20:30 文字と字種—「冗談」が通じない国もある

漢字とかな・アルファベットとの違いを理解し、漢字とかなの両方を用いる日本語表記の特殊性を考えます。後半では、日本の「常用漢字表」に相当する各国の基準を比較し、同じ漢字でありながら使用度の違うものがあることを確認します。

### 第2回 7/13 (水) 19:00~20:30 字形—「漢字テスト」台湾で100点、日本で0点?

漢字の構造(なりたちと構成方法)を理解した上で、同じパーツでも役割や組み立てが変わる漢字構造の「自在性」を確認します。また、文化庁の「常用漢字表(付)字体についての解説」「常用漢字表の字体・字形に関する指針」や漢字文化圏諸国の「漢字表」を手引きに、「標準字体」とは、何なのかを考えます。

### 第3回 7/20 (水) 19:00~20:30 意味と読み—大家の作品を大家に贈ろうと丁寧に包んで小包で送る

音読み(一字多音と同音異字のある理由)、訓読み(一字多訓と同訓異字のある理由と「使い分け」、送り仮名の存在意義)の現状を確認し、他の言語と比較した日本語における漢語の特殊性を考えます。

### 第4回 7/27 (水) 19:00~20:30 表記—渡る世間はナベばかり

「平和・和平」「制限・限制」など日中で字順が逆になる言葉の存在を、熟語の構成から読み解きます。後半は、日本の漢字政策の結果、日本と中台韓との表記が異なることとなったことや、「ワタナベ」さんの「ナベ」の漢字がたくさんある理由など日本固有の漢字意識について考えます。

※2021年度講座を受講なさっていない場合もご理解いただける内容です。



募集定員: 80名(先着順)

会場: オンライン(ZOOMにて開催、録画視聴あり)

申込期限: 2022年7月4日(月)

受講料: 9,000円(税込) ※全回の受講をお勧めしますが、ご希望の回のみのお申し込みは1回2,500円(税込)となります。

申込: 詳細はこちら → <https://osakaymca.ac.jp/jle-center/2203.html>